

人口問題審議会懇談会

B5.61
4
3-2-2

人口問題審議会懇談会

1992.12.1

- | 図書番号 | 標題 |
|-------------|-------------------------------|
| 4*3-92-2 | 人口問題審議会懇談会資料 [平成4年12月1日] |
| 4*3-92-2(1) | 人口問題審議会委員名簿 平成4年12月1日現在 (資料1) |
| 4*3-92-2(2) | 出生率低下と今後の日本経済 (資料2) |
| 4*3-92-2(3) | 人口が社会経済に及ぼす諸問題 (資料3) |

LION CUT FOLDER B5-4F-R

FILE No.

部門

担当

作成年月 年 月

保存期間 年 月 ~ 年 月 / 永久保存

0.61
4
92-2

標 題

人口問題審議会懇談会資料〔平成4年12月1日〕。

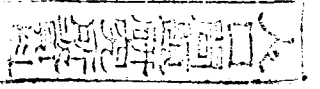
人口問題審議会委員名簿 平成4年12月1日現在 (資料1)。

出生率低下と今後の日本経済 (資料2)。

人口が社会経済に及ぼす諸問題 (資料3)。

平成4年12月1日現在

人口問題審議会委員等名簿



(氏名)	(現職)	(氏名)	(現職)
石井 須美子	三和電気工業(株)取締役会長	伊見 子	慶応義塾大学法学部教授
伊藤 善彦	東京女子大学文学部教授	福田 敏彦	明治学院大学学長
大石 以泰	東京大学経済学部名誉教授	宮澤 健	社会保障研究所長
大熊 由紀子	朝日新聞社論説委員	宮武 剛	毎日新聞社論説委員
大村 陽一	日本大学法学部教授	村武 敏郎	日本医師会会長
尾崎 美千生	毎日新聞社人口問題調査会事務局長	山岸 彰章	日本労働組合総連合会会長
加藤 正人	NHK厚生文化事業団理事長	山崎 正也	日本女医会会長
末村 治美	共立女子大学教授	山本 正	日本アクチュアリー会参与
野村 公次	(社)ソフト化経済センター専務理事	山本 正健	日本赤十字社社長
野村 公次	人口問題研究所長	山本 正	厚生年金基金連合会理事長
野村 公次	日本労働組合総連合会副会長	伊部 英男	(専門委員)
小谷 林直	読売新聞社論説委員	伊部 英男	年金総合研究センター理事長
小林 林直	国立小児病院院長	大淵 寛	中央大学経済学部教授
小坂 元正	日本母性保護医協会会長	大淵 寛	家族計画国際協力財団理事長
佐々木 元正	国連地域開発センター所長	大淵 寛	成城大学経済学部教授
佐々木 元正	三菱化成(株)相談役	大淵 寛	人口問題研究所人口政策研究部長
大井 孝一	お茶の水女子大学教授	大淵 寛	人口問題研究所人口構造研究部長
大井 孝一	朝日生命保険相互会社代表取締役会長	大淵 寛	人口問題研究所人口動向研究部長
大井 孝一	王子製紙(株)代表取締役社長	大淵 寛	人口問題研究所人口情報部長
大井 孝一	聖路加国際病院診療顧問	大淵 寛	

人口問題審議会懇談会

1992年12月1日

主要参考文献

出生率低下と今後の日本経済

大淵 寛 (中央大学)

1. 回想：1930年代
2. 労働の供給制約と日本経済
 - 1) 労働供給の縮小と高齢化
 - 2) 労働力不足の激化
 - 3) 経済成長の減速
3. 人口高齢化の社会経済的帰結
 - 1) 貯蓄率
 - 2) 消費需要
 - 3) 労働力の流動性
 - 4) 社会保障負担
 - 5) 福祉・保健マシナリー
4. 二つの政策論
 - 1) 構造調整論
 - 2) 人口政策の是非

1930年代の人口減退論

- Carr-Saunders, A. M., 1936. *World Population*, Oxford.
- Charles, E., 1936. *The Menace of Under-population: A Biological Study of the Decline of Population Growth*, London.
- Glass, D. V., 1936. *The Struggle for Population*, Oxford.
- Kuczynski, R. R., 1936. *Population Movements*, Oxford.
- McCleary, G. F., 1937. *The Menace of British Depopulation*, London.

長期停滞論

- Keynes, J. M., 1937. "Some Economic Consequences of a Declining Population," *Eugenic Review*, 29:1, April.
- Hansen, A. H., 1939. "Economic Progress and Declining Population Growth," *The American Economic Review*, 29:1, March.
- , 1941. *Fiscal Policy and Business Cycle*, New York.

近年の人口減退論

- Council of Europe, 1978. *Population Decline in Europe: Implications of Declining or Stationary Population*, London.
- Davis, K., M. S. Bernstam and R. Ricard-Campbell (eds.), 1987. *Below-Replacement Fertility in Industrial Societies: Causes, Consequences, Policies*, (Population and Development Review, A Supplement to Volume 12.)
- Espenshade, T. J., and W. J. Serow (eds.), 1978. *The Economic Consequences of Slowing Population Growth*, New York.
- Spengler, J. J., 1978. *Facing Zero Population Growth: Reactions and Interpretations, Past and Present*, Durham, N. C.
- Steinmann, G. (ed.), 1984. *Economic Consequences of Population Change in Industrialized Countries*, Proceedings of the Conference on Population Economics, Paderborn, West Germany, June 1983, Berlin.
- Teitelbaum, M. S., and J. M. Winter, 1985. *The Fear of Population Decline*, Orlando, FL. (黒田俊夫・河野潤果監訳「人口減少：西欧文明衰退への不安」多賀出版, 1989年)。

表1 労働力人口の将来予測：人口ベース (1990～2020年)

年次	高位推計		低位推計			
	総数	男	総数	女		
1990	6373	3178	2595	6373	3178	2595
1995	6171	3141	2717	6520	3851	2670
2000	6890	4076	2864	6529	3874	2655
2005	6970	4076	2884	6405	3810	2595
2010	6800	3946	2854	6200	3682	2518
2015	6631	3825	2806	5957	3522	2435
2020	6545	3747	2798	5806	3414	2392

(出所) 国際調査：人口研、日本の将来推計人口 (1997年(月)推定推計)

(注) 1) 人口はすべて中位推計値。
2) 高位推計は、労働力率について基本的に1975-90年の傾向を外挿した場合。
3) 低位推計は、原則として1990年の労働力率を不変と仮定。

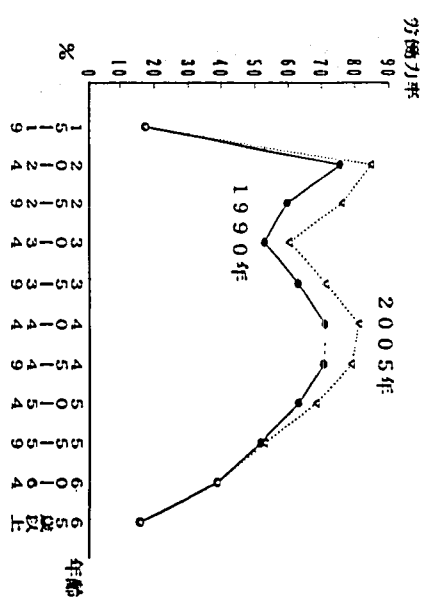


図3 女子の年齢(5歳階級)別労働力率(1990年・2005年)
資料：労働力調査
(注) 2005年の率は、1975～90年の趨勢にもとづいて推計。

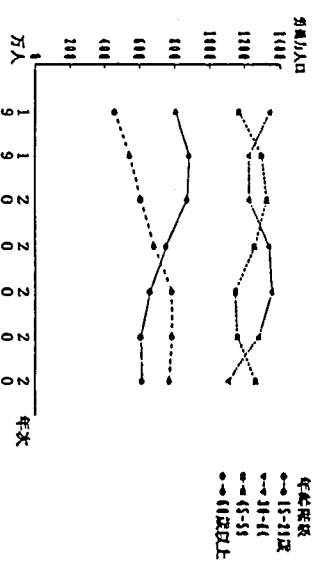


図4 男子労働力人口の年齢(4区分)別増加(1990～2020年)
(資料) 人口研「日本の将来人口推計(1991年(月)推定推計)」
(注) ①人口ベース・高位推計の場合
②労働力率に関する仮定については、表1を参照されたい。

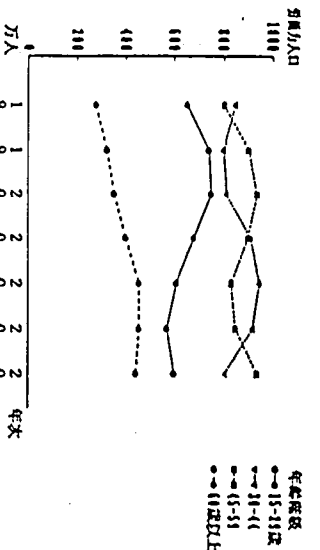


図5 女子労働力人口の年齢(4区分)別増加(1990～2020年)
(資料) (注) 図4に同じ。

表2 シナリオD：需要主導型成長 (成長率、%)

期間	高位推計				低位推計			
	実質GNP	GNP	1人あたりGNP	成長率	実質GNP	GNP	1人あたりGNP	成長率
1990-95	4.00	0.21	3.72	0.78	3.20	0.27	2.73	0.63
1995-2000	3.50	0.27	3.22	0.71	2.77	0.27	2.22	0.55
2000-05	3.10	0.26	2.83	0.64	2.44	0.26	1.83	0.49
2005-10	2.80	0.12	2.67	0.60	2.19	0.12	1.68	0.44
2010-15	2.60	-0.09	2.70	0.57	2.02	-0.09	1.69	0.41
2015-20	2.50	-0.30	2.81	0.55	1.94	-0.30	1.81	0.40

(資料) 「日本の将来人口推計」
(注) 実質GNP：1975-1990年の実績にもとづいて、連続的な率を仮定した。
就業率：1975-1990年に関する回帰式から推定した。

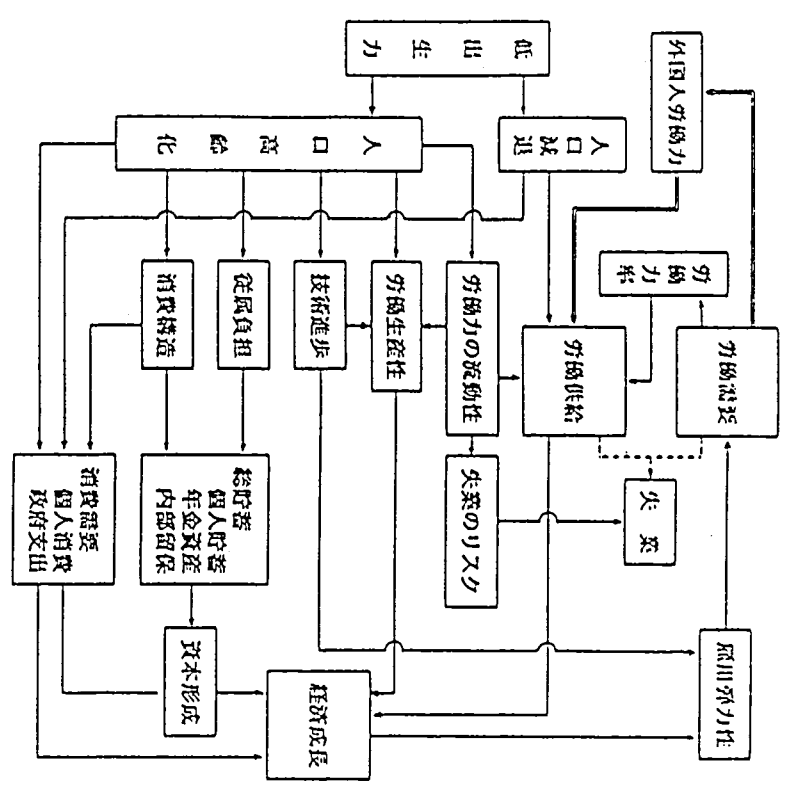


図1 低出生力、人口高齢化および経済成長の関係

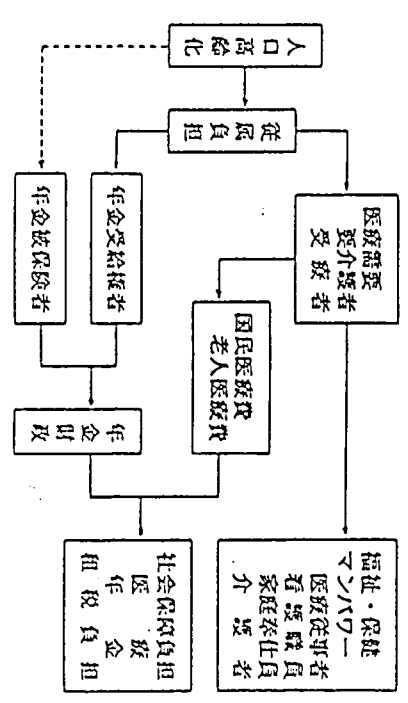


図2 人口高齢化、ランパワ-および社会保障負担

表3 労働供給パランス：2つのケース (万人)

年次	人口ベース		時短ベース	
	総数	男女	総数	男女
労働供給低位：労働供給低位の場合				
1990	52	-47	99	158
1995	191	0	191	266
2000	173	-23	196	242
2005	36	-115	151	55
2010	-233	-277	44	-36
2015	-543	-474	-68	-116
2020	-769	-627	-142	-350
労働供給高位：労働供給低位の場合				
1990	52	-47	99	158
1995	-54	-121	67	77
2000	-280	-233	-47	-96
2005	-623	-422	-201	-104
2010	-1033	-666	-367	-255
2015	-1475	-937	-537	-312
2020	-1827	-1157	-669	-338

(注) 1) 一符号は労働の超過需要(労働力不足)を表す。
 2) 労働需要はシナリオDによる。
 3) 労働供給は表1による。
 4) 時短ベースは、男女別、産業別労働時間で調整した後、時間短縮が2005年の1800時間まで一定の率で進むと仮定して算出された。

表4 シナリオS：供給制約型成長 (成長率, %)

期間	高位推計			低位推計		
	種類GNP	総人口	失業率	種類GNP	総人口	失業率
1990-95	4.29	0.27	4.01	1.06	3.20	0.27
1995-2000	3.26	0.27	2.98	0.48	2.77	1.95
2000-05	2.51	0.26	2.24	0.07	2.44	0.92
2005-10	1.82	0.12	1.70	-0.36	2.19	0.68
2010-15	1.50	-0.09	1.59	-0.51	2.02	0.38
2015-20	1.66	-0.30	1.97	-0.27	1.94	0.57

(注) 実質GNP：就業者増加率と労働生産性上昇率により算出。
 総人口：人口研の中心推計による。
 失業率：表1による。高位にそれぞれ対応する。
 労働生産性：シナリオDに同じ。

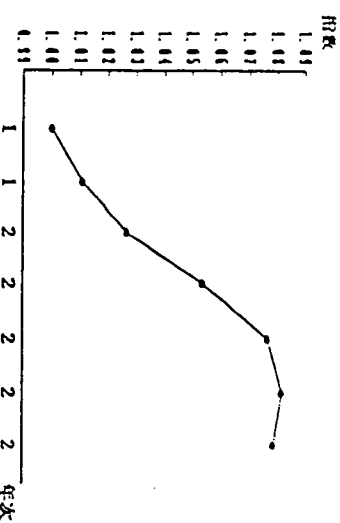


図5 総労働供給率におよぼす高齢化の影響 (1990~2020年)
 (資料) 総人口「総労働供給率」：同「図4」
 「日本の将来人口推計(1991年(月野定推計))」
 「ここで高齢化は世帯にかかわる。世帯数の将来推計は通常の世帯主法により、1990年における世帯主の年齢別世帯主率を一定と仮定した。」

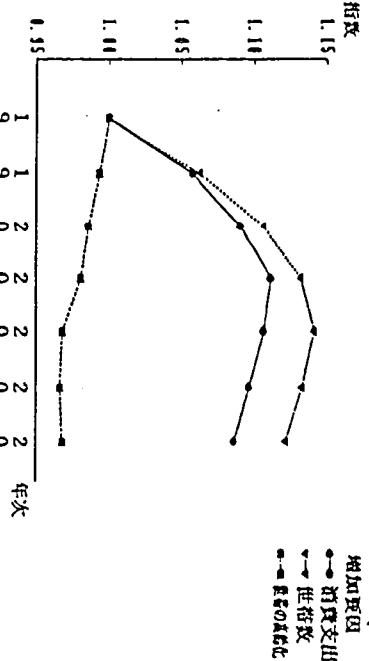


図6 消費需要におよぼす高齢化の影響 (1990~2020年)
 (資料) 総人口「家計調査」
 (注) 世帯数の推計方法は図5に同じ。

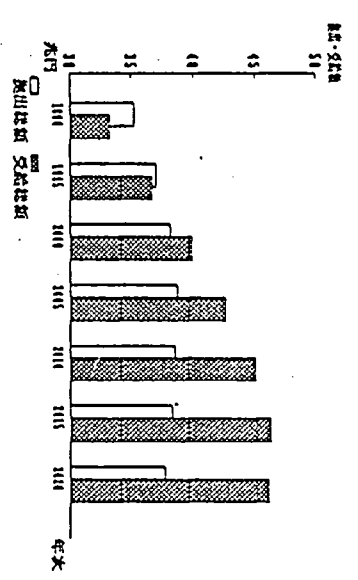


図7 社会保障制度の支出・受益パランス (1990~2020年)
 (資料) 厚生省「所得再分配調査」：「図4」
 「日本の将来人口推計」
 (注) 1) 支出額には、税金および社会保障料、受益額には年金、医療、その他を含む。
 2) 世帯数の推計方法は図5に同じ。

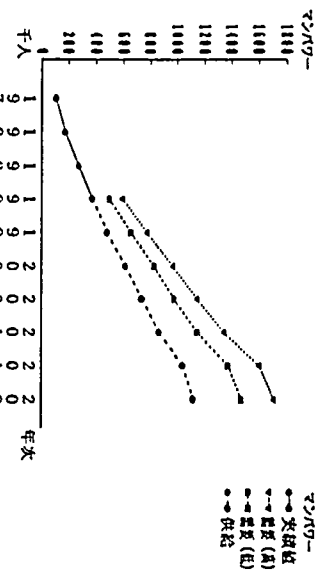


図8 高齢者人口の増加率 (1990~2020年)
 (注) 1) 供給は都道府県別老人人口1000人当たり老人家庭単住員数、老人福祉施設従事者数および老人関係者職員数の全国平均値を老人人口の千割増(中心推計)に適用して推計。
 2) 消費の中心推計は、各指針について都道府県中の最大値を用いて推計。ちなみに、老人人口1000人当たりの老人家庭単住員数の最高は東京都(図15参照)、同じく老人福祉施設従事者数のそれは静岡県、そして老人関係者職員数は福岡県で見られる。
 3) 消費の中心推計は、各指針の全国平均値にもとづいて算出された。

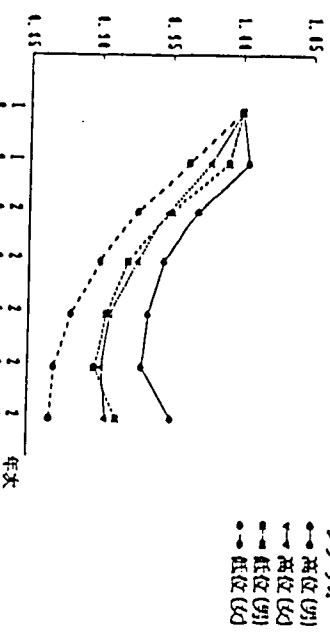


図7 労働の流動性におよぼす高齢化の影響 (1990~2020年)
 (資料) 労働省「雇用動向調査」：表1。

人口問題審議会懇談会

1992年12月1日

人口が社会経済に及ぼす諸問題

小川直宏（日本大学）

I. 人口変動と貯蓄率

- a. “orthodoxy” と “revisionism”
 - age composition effect (Coale and Hoover, 1958)
 - income distribution effect
- b. 比較的弱い人口変数の影響力
 - denominator effect
 - savings rate effect
 - composition-of-investment effect
 - a female labor force participation effect

Coale(1986), Leibenstein(1976), McNicoll(1984),
Mason(1988), Deaton(1989), NAS report(1986)
- c. 高齢化社会における貯蓄関数
 - age composition effect
 - life cycle effect

Horioka(1988), Ando(1985)

 - 遺産と貯蓄

Ohtake(1991)

II. 人口変動と労働市場

- a. cohort effect
 - 表1: 相対賃金
 - 表2: 定年年齢

III. 高齢化と女性への負担

- a. 低下する人口扶養能力: 図1, 表3, 図2
- b. 介護と育児が与える女性の稼得能力への影響: 表4, 表5

IV. 女性のキャリア

- a. 男女の教育投資効果: 表6, 表7
- b. 離婚志向の上昇と女性のキャリア選択: 表8

V. 経済変動と高齢化（展望）

- a. 日大人口研長期モデルによるシナリオ

表1. Results of regression analysis for males and females, ages 40-9 versus ages 20-4, 1962-81.

Sex	Constant	Explanatory variables		R ²
		LABOR	CYCLE	
Males	0.6490	-0.0663 (0.0343)	—	0.1262
	0.6128	—	-0.4453* (0.1126)	0.4351
	0.6623	-0.0905* (0.0188)	-0.5163* (0.0767)	0.7475
Females	0.1183	-0.1151* (0.0376)	—	0.3057
	0.0808	—	-0.2259 (0.1121)	0.1389
	0.1301	-0.1514* (0.0259)	-0.3411* (0.0694)	0.6962

Values in parentheses below each coefficient are standard errors.

*Significantly different from zero at the 5 per cent level.

表2. Earnings Equations with Mandatory Retirement Age Interaction Terms Added. (Absolute t-Statistics in Parentheses)

Variable	Small Firms		Medium Firms		Large Firms	
	1981	1986	1981	1986	1981	1986
Intercept	7.171** (323.6)	7.383** (350.4)	7.206** (290.4)	7.421** (322.3)	7.261** (261.8)	7.449** (203.9)
PREEXP	0.036** (11.5)	0.025** (7.1)	0.025** (8.6)	0.018** (5.9)	0.005 (1.2)	0.007 (1.2)
PREEXPSQ	-0.001** (13.8)	-0.0008** (9.7)	-0.0008** (9.4)	-0.0006** (6.9)	-0.0002 (1.4)	-0.0002 (1.0)
TEN	-0.379* (1.8)	-0.053 (0.3)	-0.467** (3.1)	-0.684** (3.7)	1.332** (7.6)	0.803** (2.7)
TENSQ	0.085** (4.5)	0.021 (1.2)	0.037** (3.4)	0.040** (3.7)	-0.038** (4.7)	-0.024* (1.9)
RET*TEN	0.008* (2.3)	0.002 (0.7)	0.010** (3.7)	0.013** (4.1)	-0.021** (7.1)	-0.012* (2.4)
RET*TENSQ	-0.0015** (4.7)	-0.0004 (1.3)	-0.0007** (3.6)	-0.0007** (3.8)	0.0006** (4.4)	0.0004* (1.8)
HIGH SCHOOL	0.126** (13.2)	0.119** (11.5)	0.139** (9.8)	0.137** (9.6)	0.104** (5.3)	0.140** (5.9)
JR COLLEGE	0.256** (11.9)	0.235** (10.7)	0.262** (9.9)	0.261** (10.4)	0.281** (7.6)	0.274** (6.6)
UNIV	0.378** (25.0)	0.354** (21.7)	0.392** (22.1)	0.409** (23.2)	0.424** (19.0)	0.471** (17.9)
Adj. R ²	0.91	0.91	0.92	0.93	0.92	0.90
N	287	286	288	287	287	285

*Statistically significant different from zero at the .10 confidence level; ** at the .01 level.

表3. 類型別世帯における家族扶養指数（タイプI）の変動

年次	世帯タイプ		
	夫婦健在世帯	片親（父）世帯	片親（母）世帯
1990	0.85	0.44	0.74
1995	0.80	0.56	0.82
2000	0.59	0.29	0.47
2005	0.46	0.18	0.33
2010	0.44	0.20	0.34
2015	0.43	0.21	0.34
2020	0.47	0.28	0.40
2025	0.43	0.20	0.31

表4. Estimated Wage Equation for Full-Time Paid Employees.

Predictor Variables	Parameter Estimates and Significance Tests		
	Coefficients	Standard Errors	T-Statistics
Intercept	-0.8446	0.1971	-4.285
EXP	0.0220	0.0053	4.115
WEDII	0.1897	0.0974	1.947
WEDJ	0.4876	0.1199	4.067
WEDU	0.7859	0.1449	5.423
Number of Children	-0.0989	0.0384	-2.579
OLDCARE	-0.0117	0.0065	-1.807
λ	0.2035	0.0825	2.467

N = 389; R² = 0.117; SE = 0.5994; Mean Log Wage = -0.0475.

Estimated Wage Equation for Part-Time Paid Employees.

Predictor Variables	Parameter Estimates and Significance Tests		
	Coefficients	Standard Errors	T-Statistics
Intercept	-1.3254	0.2044	-6.485
EXP	0.0164	0.0050	3.269
WEDII	0.0866	0.0816	1.061
WEDJ	0.0161	0.1086	0.148
WEDU	0.8393	0.1768	4.748
Number of Children	-0.0098	0.0337	-0.292
OLDCARE	-0.0027	0.0062	-0.437
λ	0.1675	0.0993	1.686

N = 427; R² = 0.078; SE = 0.5810; Mean Log Wage = -0.7081.

表5. Multinomial Logit Regression Coefficients for Labor Force Participation of Married Japanese Women Among Alternative Types of Employment, 1990.

	Multinomial Logit Coefficient (T-Statistic)		
	Part-Time Employee Housewife	Traditional Worker Housewife	Full-Time Employee Housewife
Intercept	-2.4644 (-1.109)	3.6812 (1.265)	0.5343 (0.240)
Youngest child: aged less than 1	-4.5890 (-4.492)	-2.8971 (-4.625)	-1.9547 (-5.723)
aged 1-5	-1.5920 (-7.918)	-0.9752 (-3.634)	-1.4601 (-7.135)
Number of other children	0.0633 (0.601)	0.0542 (0.385)	-0.0295 (-0.270)
Husband's earnings	-0.1580 (-4.996)	-0.1354 (-4.354)	-0.3254 (-8.516)
Husband's education: Senior high school	-0.4009 (-1.905)	-0.1625 (-0.573)	-0.4004 (-1.758)
Junior college	-0.7732 (-2.695)	-0.1333 (-0.365)	-0.3786 (-1.288)
University	-1.1501 (-4.443)	-0.5135 (-1.523)	-0.9884 (-3.558)
Husband working as a paid employee	0.5527 (2.244)	-3.4624 (-16.801)	0.1531 (0.637)
Urban residence	-0.3517 (-1.867)	-0.8956 (-4.018)	-1.1579 (-6.569)
Co-residence	0.2427 (1.577)	1.0243 (5.355)	0.8829 (5.882)
Wife's age	0.1752 (1.563)	-0.0843 (-0.582)	0.1720 (1.495)
Wife's age squared	-0.00201 (-1.382)	0.00133 (0.713)	-0.00221 (-1.465)
Wife's expected log full-time wage	-0.2225 (-0.404)	-0.5621 (-0.738)	2.0955 (4.115)
Expected log ratio of wife's full-time to part-time wage	-0.4899 (-1.050)	0.1225 (0.196)	-0.7846 (-1.871)

N = 1926; Log-likelihood = -1908.869.

表6. Estimated Earnings Equations From BSWS: All Sizes*

Variables	1976	1981	1986
INTERCEPT	6.631* (298.9)	6.867* (395.8)	7.004* (358.1)
TOTEXP	0.002 (0.9)	0.006* (3.1)	0.012* (5.6)
TOTEXPSQ	-0.0001** (2.3)	-0.0002* (4.0)	-0.0001* (2.8)
TEN	0.083* (10.5)	0.077* (14.9)	0.052* (9.0)
TENSQ	-0.0017* (4.2)	-0.0013* (5.1)	-0.0001 (0.4)
TOTEXPTEN	-0.0001 (0.4)	-0.0002 (0.8)	-0.0006* (2.6)
SENIOR HIGH SCHOOL	0.205* (14.4)	0.215* (18.0)	0.237* (17.3)
JUNIOR COLLEGE	0.396* (15.2)	0.393* (22.8)	0.432* (23.5)
UNIVERSITY		0.526* (21.0)	0.587* (22.4)
LARGE FIRM	0.232* (14.1)	0.246* (20.4)	0.303* (22.6)
MEDIUM FIRM	0.116* (8.2)	0.109* (10.7)	0.128* (11.6)
ADJ R ²	0.80	0.77	0.75
N	393	956	961

*Absolute t-statistics are in parentheses.
*Statistically significant at the 0.01 level.
**Statistically significant at the 0.05 level.

表7. —ESTIMATED EARNINGS EQUATIONS FOR MEN

Variable	1971	1976	1981	1986
Intercept	6.048** (479.5)	6.878** (585.7)	7.151** (590.2)	7.310** (608.7)
EXP	0.048** (18.3)	0.038** (18.5)	0.043** (22.3)	0.044** (23.4)
(EXP) ²	-0.0007** (16.9)	-0.0007** (20.9)	-0.0007** (23.2)	-0.0007** (23.1)
TEN	0.060** (10.3)	0.045** (12.9)	0.037** (12.5)	0.025** (8.6)
(TEN) ²	-0.0003 (0.7)	-0.0009** (6.7)	-0.0004** (3.7)	-0.0001 (0.7)
EXP × TEN	-0.001** (4.1)	0.0001 (0.8)	-0.0001 (1.5)	-0.0001 (0.7)
High school	0.138** (13.7)	0.135** (18.3)	0.123** (16.8)	0.126** (17.4)
Junior college	0.273** (9.4)	0.294** (17.5)	0.276** (17.7)	0.268** (18.9)
University	0.387** (26.1)	0.426** (43.5)	0.414** (44.6)	0.425** (47.6)
Large firm	0.104** (8.8)	0.135** (13.4)	0.131** (13.5)	0.182** (19.3)
Medium firm	0.061** (6.4)	0.067** (8.7)	0.053** (7.2)	0.080** (11.3)
Adjusted R ² :	0.91	0.93	0.93	0.94
N:	638	1,019	1,134	1,119

Notes: Absolute *t* statistics are given in parentheses. Variables: EXP = total market experience; TEN = years of service on current job.

** Statistically significantly different from zero at the 0.01 confidence level.

表8. Multinomial Logit Regression Coefficients for Labor Force Participation of Married Japanese Women Among Alternative Types of Employment, 1988.*

Explanatory Variables	Multinomial Logit Coefficient (T-Statistics)		
	Full-time Paid Employee	Part-time Paid Employee	Traditional Worker
	Non-Participant	Non-Participant	Non-Participant
Intercept	4.3134 [2.454]	-3.8463 [-1.685]	0.5952 [0.260]
Wife's age			
30-39	-1.0470 [-2.368]	0.1622 [0.261]	1.0500 [1.298]
40-49	-0.6537 [-1.219]	1.2016 [1.712]	0.5625 [0.610]
50-59	-0.8301 [-1.317]	0.3866 [0.469]	1.1250 [1.120]
60 and over	-3.4055 [-2.867]	-17.2757 [-0.007]	0.3874 [0.360]
Wife full-time paid employee before marriage	0.4837 [1.354]	-0.5284 [-1.484]	-0.1263 [-0.359]
Children aged 0-5	-0.7386 [-3.087]	-0.5075 [-1.589]	-0.0593 [-0.194]
Children attending elementary or junior high school	0.2563 [1.317]	0.3801 [1.797]	-0.0903 [-0.342]
Children attending senior high school	0.1199 [0.359]	-0.1222 [-0.344]	0.8482 [2.231]
Children aged 18 and over	-0.0909 [-0.453]	0.0160 [0.070]	0.1415 [0.614]
Husband's annual earnings	-0.0018 [-3.205]	-0.0024 [-3.333]	-0.0018 [-3.158]
Husband's education			
Senior high school	-0.0567 [-0.165]	0.1683 [0.460]	0.2971 [0.771]
Junior college	-0.0772 [-0.150]	0.2122 [0.355]	0.8829 [1.587]
University	-0.5952 [-1.360]	-0.6196 [-1.182]	-0.2450 [-0.445]
Husband working as a paid employee	0.8259 [2.252]	1.6029 [3.349]	-2.4830 [-7.694]
Type of co-residence			
Wife's parents	-0.3179 [-0.611]	-0.2242 [-0.415]	0.5398 [1.048]
Husband's parents	0.4115 [1.381]	-0.1494 [-0.419]	0.2227 [0.583]
Parents from both sides	-17.3074 [-0.003]	-17.5380 [-0.004]	0.8317 [0.897]
Currently living in urban area	-0.6182 [-2.180]	-0.0436 [-0.132]	-0.4405 [-1.309]
Wife's divorce risk	0.6255 [2.569]	0.2371 [0.876]	0.3078 [1.037]
Log of wife's predicted hourly wage	1.8290 [2.946]	-0.9932 [-1.248]	0.3027 [0.387]

N = 581; Log-likelihood = -578.26.

*Both means and standard deviations of the explanatory variables are presented in Appendix Table 3.

図1. 1950-1990年における都道府県別の家族扶養指数の変化

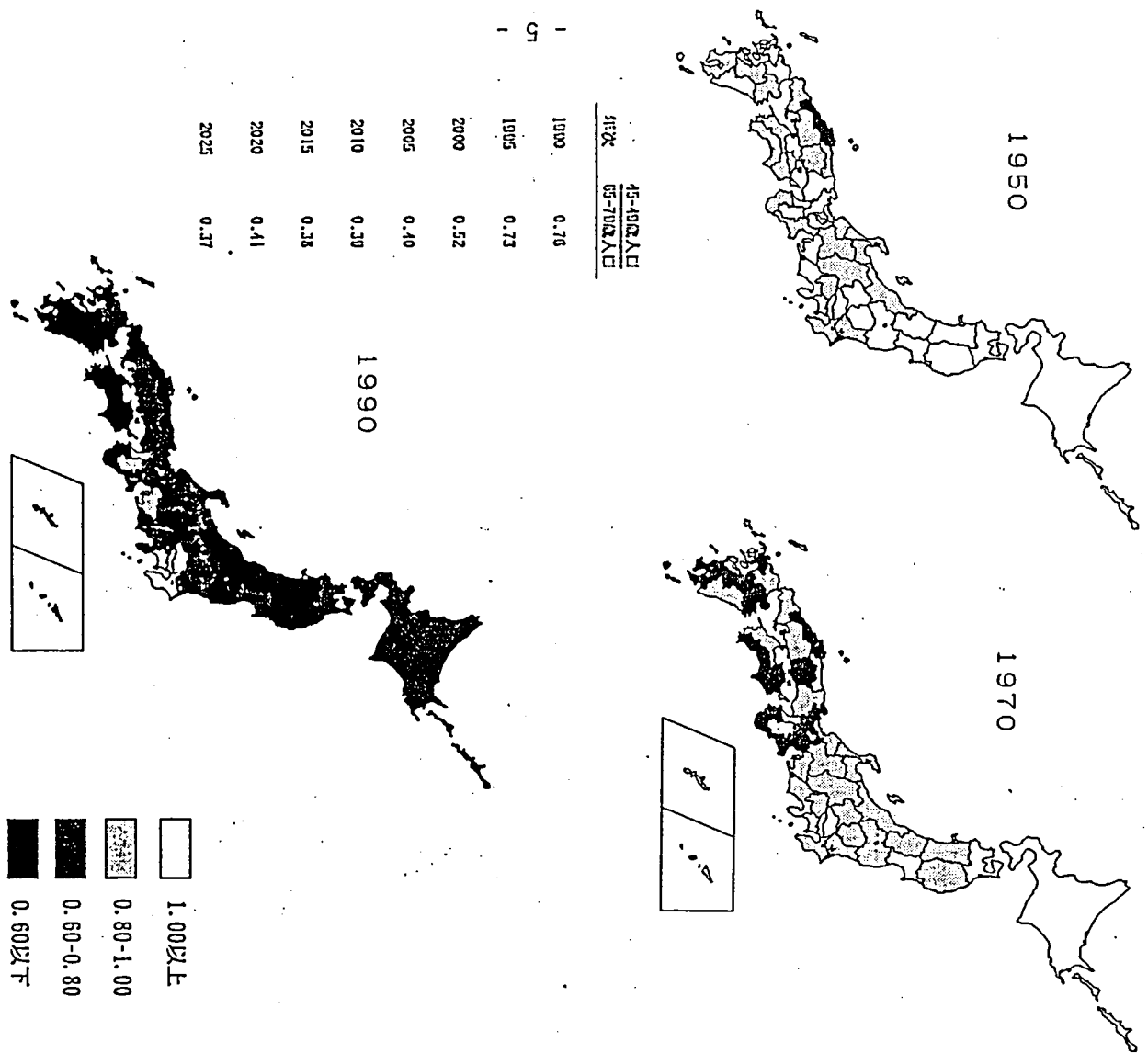
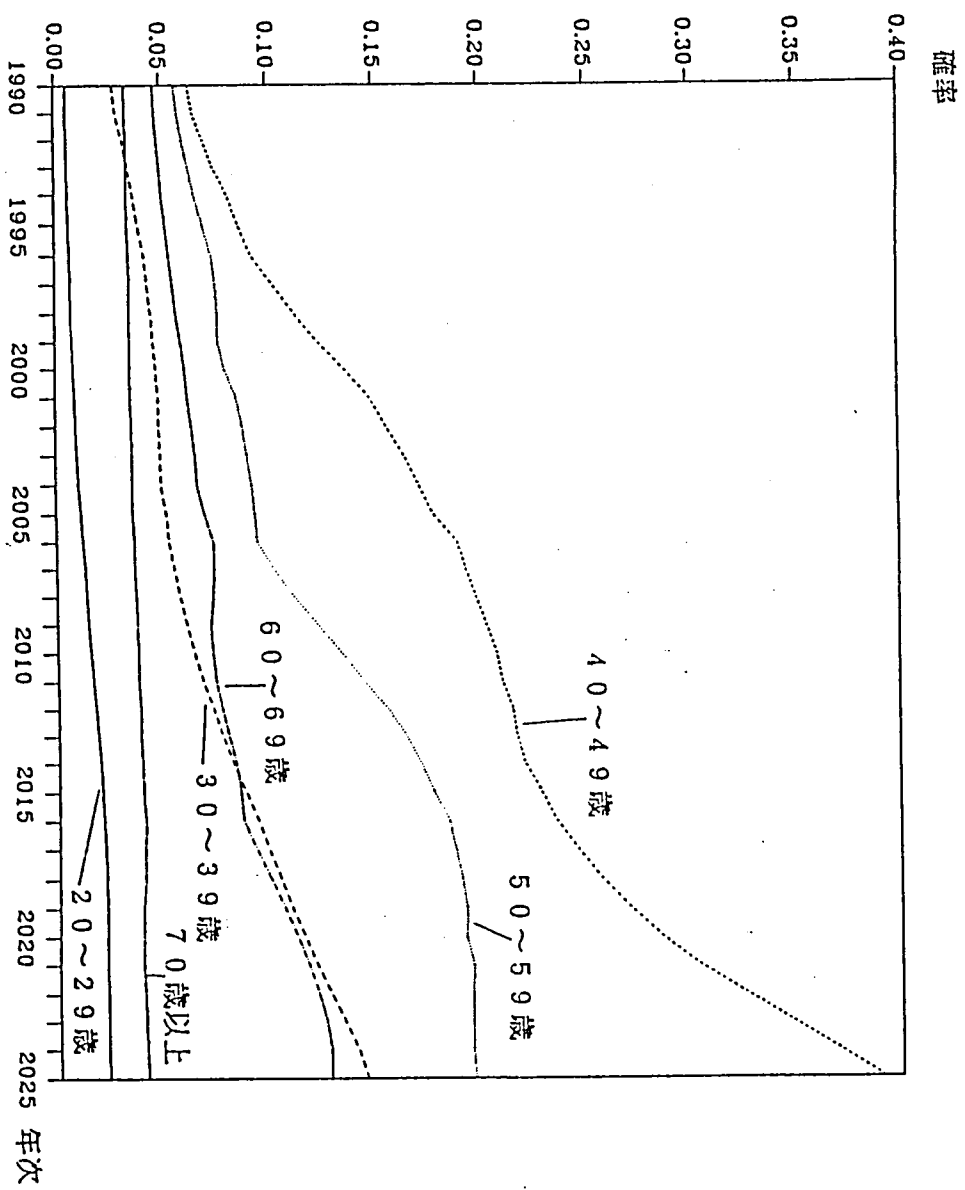
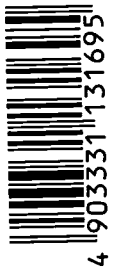


図2. 1990-2025年における年齢別未就業女子が寝たきり老人または痴呆性老人を在宅で介護する確率の変動



131-69



4 903331 131695

103808



103808

B!

3-